

環境経営レポート

2021年度

2021年4月～2022年3月

ご挨拶

建設系産業廃棄物の収集運搬・中間処理施設を、民間業者では初めて札幌市より許可を取得して以来、リサイクルシステムに貢献すべく努力して参りました。
今後も引き続き、『地球環境に貢献する建設現場のサポーター』を合言葉に全社一丸となり積極的に取り組んでいく所存であります。

エコライン株式会社

〒003 - 0869 北海道札幌市白石区川下 641 - 170

TEL 011 - 874 - 0570 FAX 011 - 873 - 2046

E-mail [info@ecoline - kk.co.jp](mailto:info@ecoline-kk.co.jp)

URL [http://www.ecoline - kk.co.jp/](http://www.ecoline-kk.co.jp/)

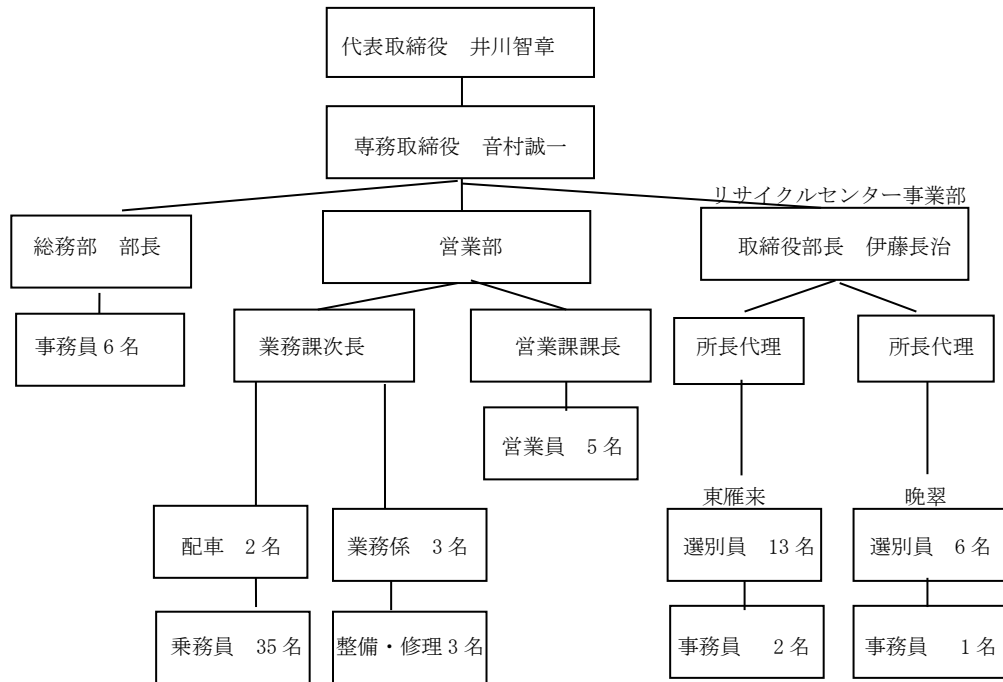
発行日：2022年7月1日

会社概要	2・3・4・5・6・7・8
	別紙1・・・15 別紙2・・・16
1. 対象範囲（認証登録）	8
2. 環境改善活動の取り組み体制	9
3. 環境に関する基本方針	10
4. 環境目標と実績	11・12
5. 環境改善活動の評価及び次年度の取組み	12・13
6. 法的及び組織が同意するその他の要求事項	14
7. 2021年度活動の最高責任者の評価と今後の課題	14
8. 別紙1	15
9. 別紙2	16

■ 会 社 概 要

- 会 社 名 : エコライン株式会社
- 所 在 地 : (本社) 北海道札幌市白石区川下641番地170
(東雁来リサイクルセンター) 札幌市東区東雁来町262番地132
(晩翠リサイクルセンター) 空知郡南幌町南10線西14番地
- 代 表 者 氏 名 : 代表取締役 井川 智章
- 事 業 内 容 : 一般貨物輸送・産業廃棄物の収集運搬及びリサイクル並びに中間処理
- 設 立 : 昭和50年10月24日
- 資 本 金 : 60,500,000円
- 売 上 高 : 1,431,229千円
- 従 業 員 数 : 81名
- 敷 地 面 積 : 本社 15,849.62㎡
東雁来リサイクルセンター 18,604.00㎡
晩翠リサイクルセンター 16,536.20㎡
- 延 床 面 積 : 本社 486.00㎡
東雁来リサイクルセンター 1,351.00㎡
晩翠リサイクルセンター 3,070.93㎡
- 沿 革 :
 - 昭和42年 山本 禎男が個人で運送業を開始。
 - 昭和50年10月 運送免許を取得し株式会社に改組。札幌市白石区北郷より白石区川下に本社を移転。
 - 平成12年3月 湯佐英司が社長に就任し北興グループの一員となる。
 - 平成18年3月 山本山運輸(株)、小林運輸(株)が合併し社名をエコライン(株)とし新たなスタートを切る。
 - 平成19年8月 松下運輸(株)より事業譲渡を受け新生エコライン(株)がスタートする。
 - 平成21年6月 建設系産業廃棄物の一般受入開始。
 - 平成26年5月 井川 智章が社長に就任する。
 - 平成28年12月 空知郡南幌町に晩翠リサイクルセンターオープン。

エコライン株式会社 業務機構図



(1) 事業規模

①収集運搬業

- ・ 運搬車両の種類と台数：44台（ユニック車31台、パッカー車5台、その他8台）
- ・ 積替保管施設の有無と面積及び保管上限量：有 空知郡南幌町字幌向原野1013番13、面積 34.17㎡、保管上限103.6㎡
- ・ 種類（産業廃棄物）

北海道	燃え殻・汚泥・廃油・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・ゴムくず・金属くず・ガラス・コンクリートくず・陶磁器くず・がれき類・ばいじん・廃酸・廃アルカリ
-----	---

- ・ 種類（特別管理産業廃棄物）

北海道	廃油・廃酸・廃アルカリ・特別有害産業廃棄物（廃石綿等）
-----	-----------------------------

②処分業

○東雁来リサイクルセンター

- ・ 処理施設の種類：選別・圧縮～廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物であるものを除く）

- ・処理する産廃の種類：一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く下記の産業廃棄物（工作物の新築、改築、又は除去に伴って生じたものに限る。）

圧縮	廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物であるものを除く）
選別	廃油（アスファルト防水材に限る）・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず・がれき類・石膏ボード

- ・処理能力：選別80 t/日、圧縮3.36 t/日
- ・処理方式：中間処理
- ・処理工程図（別紙1）受入⇒手選別⇒搬出先（焼却、破碎、埋め立て）

○晩翠リサイクルセンター

- ・処理施設の種類：破碎・圧縮

圧縮	廃プラスチック類、紙くず
破碎	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類

- ・処理能力：圧縮10.9 t/日
 破碎 廃プラスチック類・42.2 t/日、紙くず・72.3 t/日、木くず・99.4 t/日、繊維くず・21.7 t/日、金属くず・68.1 t/日、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず・180.7 t/日、がれき類・184.5 t/日
 木くず（チップ）・76.0 t/日
- ・処理方式：中間処理
- ・処理工程図（別紙2）受入⇒前処理⇒破碎⇒焼却、埋立、売却

(2) 処理実績

産業廃棄物取扱量 (中間処理)	2019年度		2020年度		2021年度	
	処分実績 単位 (t)	割合 (%)	処分実績 単位 (t)	割合 (%)	処分実績 単位 (t)	割合 (%)
木くず	8,427	26	7,428	23	5,597	17
紙類	392	1	256	1	235	1
金属くず	2,333	7	1,866	6	1,870	6
がれき類	2,201	6	3,012	9	3,256	10
ガラス、コンクリートくず 及び陶磁器くず	8,923	26	2,379	7	1,372	4
石膏ボード	1,088	3	2,205	7	3,172	10
廃プラスチック	4,558	13	3,827	12	4,949	15
繊維くず	24	0	42	0	31	0
廃油	73	0	40	0	0	0
残さ	6,324	18	11,245	35	11,781	37
合計 (t)	34,343	100	32,300	100	32,263	100

収集運搬 (当社中間処理)	2019年度		2020年度		2021年度	
	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)
木くず	6,281	25	5,176	28	3,870	23
紙類	305	1	171	1	169	1
金属くず	1,599	6	1,689	9	1,185	7
がれき類	2,642	10	2,121	12	2,212	13
ガラス、コンクリートくず 及び陶磁器くず	5,182	20	5,471	30	4,766	29
石膏ボード	615	2	1,407	8	1,706	10
廃プラスチック	2,578	10	2,133	12	2,800	17

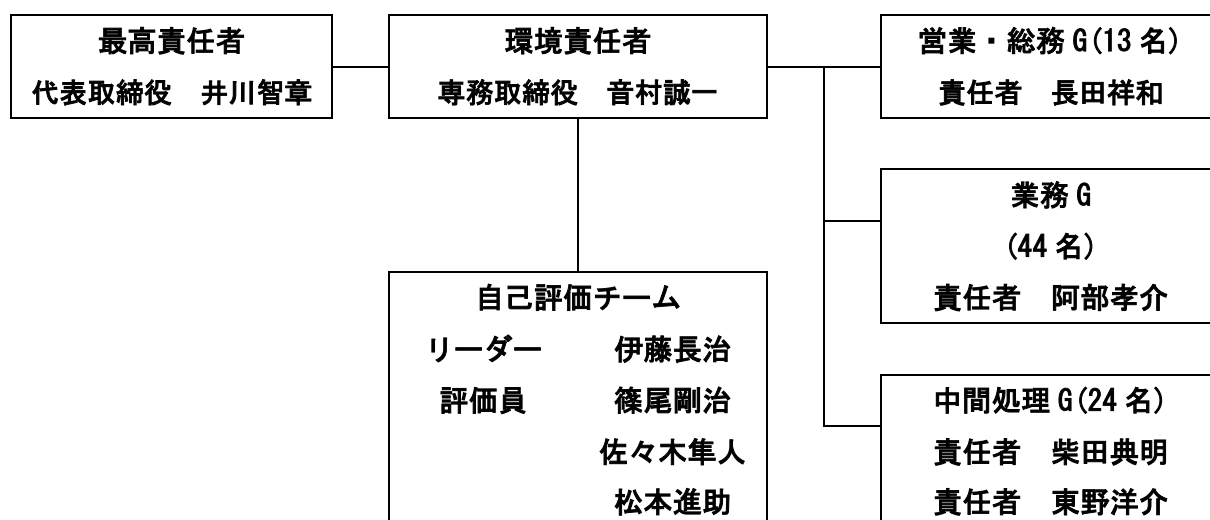
繊維くず	12	0	12	0	12	0
廃油	106	1	21	0	0	0
その他	6,324	25	0	0	0	0
合計 (t)	25,644	100	18,201	100	16,720	100

収集運搬 (運搬のみ) (t)	2019年度		2020年度		2021年度	
	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)
木くず	391	19	257	23	132	14
紙類	31	2	40	4	7	1
金属くず	2	0	1	0	0	0
がれき類	1,197	58	646	58	583	60
ガラス、コンクリートくず 及び陶磁器くず	83	4	27	2	71	7
石膏ボード	23	1	4	0	89	9
廃プラスチック	76	4	105	9	59	6
繊維くず	0	0	0	0	0	0
廃油	66	3	3	0	8	1
汚泥	120	6	6	1	1	0
その他	4	0	13	2	4	0
小計 (t)	1,993	99	1,102	99	954	98
特管物	65	3	8	1	22	2
合計 (t)	2,058	100	1,110	100	976	100

収集運搬 (運搬のみ) (m ³)	2019年度		2020年度		2021年度	
	運搬実績 単位(m ³)	割合 (%)	運搬実績 単位(m ³)	割合 (%)	運搬実績 単位(m ³)	割合 (%)
廃プラスチック	102	10	199	65	339	84
ガラス、コンクリートくず 及び陶磁器くず	168	43	45	15	0	0
廃油	42	47	45	15	63	16
廃アルカリ	0	0	0	0	0	0
がれき類	0	0	9	3	0	0
その他	7	0	5	2	0	0
合計 (m ³)	319	100	303	100	402	100

再資源化	2019年度		2020年度		2021年度	
	再資源化 実績	割合	再資源化 実績	割合	再資源化 実績	割合
	単位 (t)	(%)	単位 (t)	(%)	単位 (t)	(%)
木くず	8,427	64	7,428	63	5,597	50
紙類	402	3	251	2	235	2
繊維くず	49	0	42	0	31	0
石膏ボード	635	5	974	8	1,639	15
廃プラスチック	634	5	519	4	790	7
金属くず	2,333	18	1,866	16	1,870	17
がれき類	424	3	544	5	830	7
その他	285	2	251	2	309	2
合計 (t)	13,189	100	11,875	100	11,301	100

2. 環境改善活動取り組み体制



○管理責任者 音村 誠一 連絡先 011-874-0570

○HES 担当者 音村 誠一 連絡先 011-874-0570

3. 環境に関する基本方針

環境に関する基本方針

<基本理念>

エコライン株式会社は、事業運営と地球環境の保全両立し、住み良い北海道の地域社会を実現するために、全組織を挙げて環境改善活動に取り組みます。

<方針>

エコライン株式会社は、産業廃棄物の収集運搬、処分業及びそれに関するサービスの提供により発生する環境影響を低減するために、次の方針に基づき、環境改善活動を推進します。

1. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境への影響を常に認識し、全事業所において環境マネジメントシステムを継続的に改善し、汚染の予防にも努めます。
2. 環境に関連する法的及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境影響要因のうち、以下の項目を環境改善活動の重点テーマとして取り組みます。
 - (1) 電気使用量の削減
 - (2) 廃棄物排出量の削減
 - (3) 水使用量の削減
 - (4) ガソリン、軽油の使用量の削減
 - (5) 受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮に関する項目
4. この環境に関する基本方針は、全従業員が理解し、行動出来るよう周知徹底するとともに社外にも公表します。
5. 地域密着型の環境保全活動に積極的に参画します。

この環境に関する基本方針を達成し、環境パフォーマンスを向上させるために、環境目標を設定し、当社の全従業員をあげて、環境改善活動を展開するとともに、定期的に見直しを実施します。

2021年4月1日 制定
エコライン株式会社

代表取締役 井川 智章

＜基本理念＞

エコライン株式会社は、事業運営と地球環境の保全を両立し、住み良い北海道の地域社会を実現するために、全組織を挙げて環境改善活動に取り組めます。

＜方 針＞

エコライン株式会社は、産業廃棄物収集運搬及びリサイクル並びに中間処理等、及びそれに関するサービスの提供により発生する環境影響を低減するために、次の方針に基づき、環境改善活動を推進します。

1. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境への影響を常に意識し、全事業所において環境マネジメントシステムを継続的に改善し、汚染の予防にも努めます。
2. 環境に関する法的及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境影響要因のうち、以下の項目を環境改善活動の重点テーマとして取り組みます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減（電気使用量、車両燃料の削減）
 - (2) 水資源の保全（一般水道水の使用量の削減）
 - (3) 循環型社会への対応（産業廃棄物のリサイクル率の向上）
 - (4) グリーン購入の推進
4. この環境に関する基本方針は、全従業員が理解し、行動できるよう周知徹底するとともに、社外にも公表します。
5. 地域密着型の環境保全活動に積極的に参画します。

この環境に関する基本方針を達成するために、環境目的・目標を設定し、当社の全従業員をあげて環境改善活動を展開するとともに、定期的に見直しを実施します。

2013年5月10日改定
エコライン株式会社
代表取締役 井川 智章

4. 環境目標と実績（H E S適用範囲）（2021年度）2021/4～2022/3

環境改善活動	具体的施策	目標値	実績値	評価
電気使用量の削減 2022年度まで基準年度 2018年度比1%の削減	・冷暖房温度の設定 ・休憩時間の消灯 ・不要電源OFFの励行	211,932 kWh/年	222,179 kWh/年	B
水の使用量の削減 2022年度まで基準年度 2018年度比1%の削減	・車両洗車時の適正使用 ・節水パーツの利用	752 m ³ /年	544 m ³ /年	A
廃棄物排出量の削減 産業廃棄物リサイクル率 の向上 2022年度までに41.2% （含む輸出）にする 基準年度数値 （2018年度40.0%）	・分別の徹底 ・廃プラ処分内訳見直し	40.8%/年	35.0%/年	C
グリーン購入 低廃出ガス認定かつ燃費基 準達成車への入替促進 2022年度まで目標2台	・トラック2台	2台/年	3台/年	A

※取組スタートは2011/6月

※評価基準 A：達成率100%以上

B：達成率 90%～100%未満

C：達成率 90%未満

追加環境目標と実績（2021年度） 2021/4～2022/3

環境改善活動	具体的施策	目標値	実績値	評価
軽油使用量の削減 走行1km当たりの使用量を2022年度 までに2018年度比1.5%削減する （基準年度2018年度）0.345ℓ/1km	・アイドリング ストップ ・運行効率の確保	0.341ℓ/ km	0.328ℓ/ km	A
ガソリン使用量の削減 営業収入1百万円あたりの使用量を 2018年度比1.5%削減する （基準年度2018年度10.15ℓ/1百万円）	・アイドリング ストップ ・効率的営業の展開	10.05ℓ/ 百万円	5.93ℓ/ 百万円	A

中期環境目標（2020～2022年度）

項目	基準年度 2018年度	環境目標			環境目的
		2020年度	2021年度	2022年度	
省エネルギー	消費電力 216,325kwh/年	214,073 kwh/年	211,932 kwh/年	209,813 kwh/年	2022年度までに、 新施設の影響を 加味した使用量 から1%/年削減 する。
省資源	水の使用量 767m ³ /年	759m ³ /年	752m ³ /年	745m ³ /年	2022年度まで、新 施設の影響を加 味した使用量か ら1%/年削減す る。
産業廃棄物の 排出	リサイクル率 年40.0%	40.4%/年	40.8%/年	41.2%/年	2022年度までに 41.2%/年に上げ
グリーン購入	排ガス規制車の 導入	トラック等 2 台	トラック等 2 台	トラック等 2 台	2022年度までに トラック等6台 購入する。
省エネルギー	1kmあたりの 軽油の使用量 0.345ℓ/1km	0.343ℓ/1km	0.341ℓ/1km	0.339ℓ/1km	2022年度までに ▲1.5%削減す る。
省エネルギー	売上百万円あたりの ガソリンの使用量 10.15ℓ/百万円	10.10ℓ/百万円	10.05ℓ/百万円	10.00ℓ/百万円	2022年度までに ▲1.5%削減す る。

5. 環境改善活動の評価及び次年度の取組み

【電気使用量の削減】

○電気使用量削減目標に対して95%の達成率となり、目標に対して未達成となりました。本社は、コロナ感染症予防のため換気を行いながら冷暖房を使用したほか、人員増に伴いPCの利用が増加したことなどを要因に、電気使用量が前年比4%増加しました。晩翠リサイクルセンターは、混合廃棄物処理量が増加したため、混合廃棄物破砕機の稼働が高まり、前年比で3%使用量が増加しました。東雁来リサイクルセンターは、前年程度の使用量で推移しました。全社的に日常の休憩時間の消灯・省エネ機器への移行等の細やかな取組みは定着しています。

2022年度も節電に取組み、電気使用量の削減に向けて一層努力していきます。

【水の使用量の削減】

○2021年度の水道使用量は削減目標を達成しました。本社は洗車時に、晩翠リサイクルセンターは埃対策の散水時に、それぞれ節水に努めています。

2022年度も引き続き節水に取り組み、水の使用量を削減していきます。

【廃棄物排出量の削減】

○排出量削減目標に対して86%の達成率となり、目標に対して未達成となりました。

石膏ボードの処理量が前年比967t増加し、再資源化を積極的に進めています。石膏ボードのリサイクル率は2020年度44%から2021年度は52%に上昇しています。一方、リサイクル率100%の木くずの処理量が前年比で1,831t減少し、全体に占める割合が低下し、リサイクル率低下の要因となりました。

2022年度も引き続きリサイクルセンターの人員の適正配置と受入量のバランスに留意し、選別精度の維持・向上を図ります。特に、処理量が増加している石膏ボードのリサイクルを強化し目標に近づけます。

【グリーン購入】

○2021年度は排ガス規制基準を満たした重機を3台購入し、目標を達成できました。

2022年度はトラック4台の入替を実施予定で計画を達成できる見通しです。

【軽油使用量の削減】

○2021年度は、アイドリングストップ等の取組みのほか大雪により収集活動が抑制されたこともあり、軽油使用量は前年比減少し、目標を達成できました。

2022年度も引き続きデジタコを有効活用し適正速度での運行を徹底し、目標を達成出来るよう取り組んでいきます。

【ガソリン使用量の削減】

○2021年度はコロナ過の中、通常の営業活動が抑制され、冬は大雪に伴い思うように営業活動ができませんでした。営業活動が抑制される中、売上高は増収で推移し目標を達成できました。

2022年度も、効率的な営業を徹底していきます。

【CO₂排出削減状況】（電力のCO₂排出計数は北海道電力㈱の2018年度実績 0.656kg-CO₂/kwhを使用）

○2022年3月期は1,627千kg-CO₂となり、2021年3月期1,650千kg-CO₂に対して、23千kg-CO₂減少となりました。軽油、ガソリン等の使用量が減少した一方、電気使用量が増加したため、1.4%削減の結果になりました。燃料および電気の使用量の削減に向けて一層努力していきます。

6. 法的及び当社が同意するその他要求事項

○当社の事業活動に該当する環境に関する法的及び当社が同意するその他の要求事項については、順守状況を定期的に確認しております。利害関係者からの指摘、訴訟等はありません。

7. 2021年度活動の最高責任者の評価と今後の課題

○環境目標達成に向けた各部門の取組みに加え、コロナ過・大雪等により活動に制限を受けたこともあり、燃料・水道の使用量等を削減できました。一方、全体の産業廃棄物処理量が横這いの中、処理品目の増減等の影響を受け、電気使用量、リサイクル率が目標に届きませんでした。未達成となった項目については、次年度の課題として取組んで参ります。

○CO₂は前年比1.4%排出を削減できました。2022年度も、燃料・電気の使用量を削減し、CO₂排出削減に向けて取組んで参ります。

○急増している石膏ボードに対するリサイクルの取組みは、弊社のみならず道内の産業廃棄物処理業界全体の環境改善活動につながるものと考えます。弊社は、2021年度に積極的に石膏ボードのリサイクルに取組み、石膏ボードのリサイクル率は前年度比8%上昇しています。2022年度も、選別環境・作業体制を整備し、石膏ボードのリサイクル率向上に努め、最終処分場への負荷軽減を図っていきます。

中間処理施設(選別・圧縮)処理工程(東雁来リサイクルセンター)

自社の収集運搬

他社の収集運搬

受入 建設廃棄物 (工作物の新築、改築又は除去によって生じたものに限る)

品目 選別:廃油(アスファルト防水材料に限る)、廃プラスチック類、紙くず、木くず、
繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
圧縮:廃プラスチック類

選別・圧縮して各保管ヤードへ

ヤ ー ド	・ 混 合 残 さ 保 管	ヤ ー ド	・ 石 膏 ボ ー ト 保 管	ド 磁 器 く ず 保 管 ヤ ー ド	リ ス ト く ず 及 び 陶 磁 器 く ず	・ ガ レ キ 類 ・ ガ ラ ス く ず	・ 廃 油 保 管 ヤ ー ド	ド ・ 木 く ず 保 管 ヤ ー ド	保 管 ヤ ー ド	・ 廃 プ ラ ス チ ック 類	ヤ ー ド	・ ダ ン ボ ー ル 保 管	ヤ ー ド	・ 金 属 く ず 保 管
-------------	---------------------------------	-------------	--------------------------------------	--	--	---	--------------------------------------	--	-----------------------	---------------------------------------	-------------	--------------------------------------	-------------	---------------------------------

搬 出

・混合残さ「管理型」	空知興産(株)、(有)そらまめカンパニー
・混合残さ「安定型」	(株)道央環境、(株)新電工、(株)今多建設
・混合残さ「焼却」	空知興産(株)
・再生品「ガラス陶磁器くず」	リサイクルファクトリー(株)
・再生品「がれき類」	リサイクルファクトリー(株)、リサイクル骨材(株)
・再生品「木くず」	(株)三基開発、(有)繁泉産業
・再生品「廃プラスチック類」	(株)苫小牧清掃社
・再生品「金属くず」	(株)鈴木商会、(株)マテック、岡谷エコアソート(株)、 (株)藤川紙業、(株)紅日貿易
・再生品「紙くず」	(株)マテック、エコフィスジャパン(株)
・再生品「石膏ボード」	(株)北海道吉野石膏、(株)公清企業、リサイクルファクトリー(株) (株)トクヤマチヨダジブサム

中間処理施設(選別・圧縮)処理工程(晩翠リサイクルセンター)

自社の収集運搬

他社の収集運搬



保管場所	受入保管ヤード
品目	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・ コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類



前処理後破碎して各保管ヤードへ



ヤ ・ ド 混 合 残 さ 保 管	磁 器 く ず 保 管 ヤ ー ド	リ ・ ・ く ず コ ン ク リ ー ト く ず 陶 磁 器 く ず 保 管 ヤ ー ド	ス ・ ・ が れ き 類 ・ ガ ラ ス く ず 保 管 ヤ ー ド	木 く ず 保 管 ヤ ー ド	保 ・ 管 ヤ ー ド 廃 プラ ス チ ック	ヤ ・ ・ ダ ン ボ ー ル 保 管	ヤ ・ ・ 金 属 く ず 保 管	管 ヤ ・ ・ 石 膏 ボ ー ド 積 替 保 管
---	---	---	--	--------------------------------------	---	--	---	---



搬 出



・混合残さ「管理型」	空知興産(株)、(有)そらまめカンパニー
・混合残さ「安定型」	(株)道央環境、(株)新電工、(株)今多建設
・混合残さ「焼却」	空知興産(株)
・再生品「ガラス陶磁器くず」	リサイクルファクトリー(株)
・再生品「がれき類」	リサイクルファクトリー(株)、リサイクル骨材(株)
・再生品「木くず」	(株)三基開発、(有)繁泉産業、北海道地域暖房(株)
・再生品「廃プラスチック類」	(株)苫小牧清掃社
・再生品「金属くず」	(株)鈴木商会、(株)マテック、岡谷エコアソート(株)、 (株)藤川紙業、(株)紅日貿易
・再生品「紙くず」	(株)マテック、エコフィスジャパン(株)
・再生品「石膏ボード」	(株)北海道吉野石膏、(株)公清企業、リサイクルファクトリー(株) (株)トクヤマチヨダジブサム